

大阪府南部に見られる方言の推移

岸江 信介*

過去15年間にわたって大阪府南部の方言調査に携わってきた。この間に同地域でいくつかの調査を企画し、その都度、調査結果の報告を行ってきた。これらの調査報告には主に語彙についてであるが、同じ項目が10数項目以上含まれている。これらの調査の中で、初期段階の調査として1981年-1983年に行った「泉州・紀北方言地理学的調査」、最近のものとして1993年-1997年に行った「大阪市～和歌山市間方言グロットグラム調査」の二つの調査の間には最長で15年以上の開きがあり、方言変化の実時間上での比較が可能である。ここでは、これら両者の調査の中から、共通項目である「蛙」・「蟷蛙（ひきがえる）」・「蛇（へび）」・「蝮（まむし）」・「返礼の品」・「日照り雨」の6項目の結果を比較し、方言形式の変化について述べることにする。なお、当該地域の主に市町村単位を対象とした調査結果も併せて掲げることにした。

I have been engaged in researching dialect change in the southern area of Osaka prefecture for fifteen years since 1979. I have already reported on the results of how the dialect has changed through several surveys. Among them, I would like to deal mainly with two different surveys, one is "The Survey of Linguistic Atlas in Southern Osaka and Northern Wakayama" in 1981-1983; the other is "The Survey of Glottogram in Southern Osaka" in 1993-1997. The results of the two surveys show us clearly the dialect change at real time. I will focus on vocabulary such as "frog", "toad", "snake", "viper (poisoned snake)", "token", "sun shower" in order to explain about how the dialect of these words have changed over fifteen years.

1. はじめに

方言の動向を探る調査には、見かけ時間上での動向をみる調査と、実時間上での動向をみる調査の二つがある。ここでは、これら両方の観点から、同一地域で行った調査時期が異なるいくつかの調査結果を示し、この地方の方言がどう変化したかをみることにしたい。これまで大阪府南部地方において過去17年間に筆者が携わった地域言語調査の中から専ら大阪府泉南のものを特に取り上げ、主に方言使用の変遷について比較・検討することにする。これまで当地域に限って言えば、次の5つの調査に筆者は関わってきた。

調 査 名 称	話者世代	調 査 期 間
①「泉州・紀北方言地理学的調査」	《老年層》	1981～1983
②「泉南郡熊取町方言調査」	《全年層》	1982
③「泉南市岡田方言調査」	《全年層》	1989～1990
④「泉南市山間部方言調査」	《全年層》	1993
⑤「大阪市～和歌山市間グロットグラム調査」	《全年層》	1993～1997

①と⑤との調査の実時間上の差は最長で17年以上あり、①が筆者による単独調査、②～⑤は複数

の調査員による調査だが、すべて筆者が企画したものである。①の調査は語彙中心の調査であり、②から⑤にかけての項目には語彙のほか、表現法も含まれる。80年代前半から90年代後半にかけて、大阪府泉南地方の方言がどう変貌したかをそれぞれの調査結果を比較することによって明らかにしたいので、以下で扱うのは語彙中心ということになる。また、①～⑤までの調査項目には語彙項目にも異同があるので主に①・⑤の調査で共通する項目を中心に取り上げることにし、更に②・③・④でこれらと共通する項目を扱っている場合には、それらの調査結果も随時取り上げることにした。

2. 泉南方言の動態

大阪府泉南地方の方言は岸和田市以南の方言を指し、岸和田市に隣接する和泉市、及び同市以北の方言とは多くの点で異なりをみせる^(注1)。泉南地方が地理的に和歌山市に近いということもあって、泉南方言は大阪市方言よりもむしろ和歌山県の紀北方言と共通するところが大きい。過去20年間において、泉南地方各地で団地化が進み、堺市や大阪市方面へ通学・通勤する人々が徐々に増えてきたため、ますます関西中央部との行き来が頻繁になっている。この影響を受けて岸和田市以南の泉南方言には大阪市などの関西中央部方言が特に泉南地方の中・若年層に次第に浸透している点が見られている^(注2)。

はじめに述べたように、以下では主に語彙を中心にしてということになるが、これまで泉南地方で行った調査結果を比較することにより、この地域で方言がどう変化したかについてみることにしたい。

3. 方言形式の変遷

今から約17年前に行った①「泉州・紀北方言地理学的調査」の話者は大半が明治生まれであった。一方、⑤「大阪市～和歌山市間グロットグラム調査」では最も年輩の70代話者ですら大正生まれかあるいは昭和一桁の生まれである。これら両者を比較するだけでも、方言変遷の動きを見ることができ、更に⑤の世代毎の差を考慮すると、泉南地方の方言形式の消失していく状況が一段と鮮明になる。

以下では「蛙(かえる)」・「蟪蛙(ひきがえる)」・「蛇(へび)」・「蝮(まむし)」・「返礼の品」・「日照り雨」の6項目の例を示し、その方言がどう推移したかをみていくことにしたい。

(1) 「蛙(かえる)」

「泉州・紀北境界付近地図【図1】」では、大阪府南部には凡例中に掲げた6つの形式のうち5つまでが揃っている。カエル、カイルの分布領域は他形式に比較してそれぞれ広く、和歌山北部にまで広がっている。ガイル・ガエルの形式は和泉市あたりから泉南郡阪南町(現在、阪南市)に認められるが、カイル、カエルの分布がより広いところから、カイル、カエルからガイル、ガエルは新たに变化した形式であると推定できよう。【図3】に掲げた「蛇」の項目に見られる形式のクチナワをグチ

(注1) 岸江・中井(1997予定)「大阪市～和歌山市間方言グロットグラム調査報告」参照。同調査は、大阪市から和歌山市間のJR阪和線沿いの26地点において、70代～10代の生え抜きを対象に行った。

(注2) 岸江信介(1997予定)「大阪府におけるハルとヨルの動態と分布」(名古屋・方言研究会会報・第15号)及び前掲(注1)の報告書等、参照。

ナワ、あるいはクモをグモというように、濁らせることによってこれらを卑下するため生じた形式であると思われる。ガイルとグチナワそれぞれの分布領域にそれぞれ注目すると、いずれも、前者ではカイルの分布領域の中にガイルの分布が、後者ではクチナワの分布領域の中にグチナワの分布がそれぞれ見られ、ガイルとグチナワの分布がほぼ一致していることが分かる。

さて「大阪市～和歌山市間方言グロットグラム調査結果【表1】」では、ほぼカエル一色となっており、【図1】にあらわれたカイル、ガエル、ガイル等の形式は、わずかに岸和田市の60歳以上に認められる程度に過ぎない。1980年前半に認められた形式は大半が姿を消したということになる。1993年に行った⑤「泉南市山間部方言調査」においてもカエルが圧倒的に増えており、旧形式であるカイル、ガイル、ガエル等はほとんど姿を消している点を確認され、【表1】の調査結果を裏付ける結果が示されている。

(2) 「蟊蛙（ひきがえる）」

まず「泉州・紀北境界付近地図【図2】」における各方言形式を概観すると、和泉市・岸和田市・貝塚市にヒキガエルがまとまって分布し、熊取町以南のゴトヒキと対立している。また、和泉市にはヒキガエルのほか、フクガエルが認められる。また、ゴトヒキの分布領域の中、特に泉南市の海岸部あたりにヒキゴトが分布している。この形式は、ゴトヒキとヒキガエルの混交し生じた可能性が高い。

「大阪市～和歌山市間方言グロットグラム調査結果【表2】」では、【図2】で見られたヒキガエルとゴトヒキの分布上の対立が50歳代以上には認められるが、40歳代以下の世代にはこの対立がほとんど消滅したといえよう。その主な理由は、ヒキガエルにとって代わるガマガエル、イボガエルが40歳代以下の世代に広く浸透しているからである。当地域では全国共通語形のヒキガエルも次第に勢力が弱まりつつあり、これに変わる形式としてイボガエルとガマガエルとが勢力争いをしているが、若年世代でイボガエルが主として用いられることが多くなっている。

先に【図2】でみたフクガエルは【表2】では認められなかった。既にこの形式は衰退したとも見られないことはないが、大阪市～和歌山市間方言グロットグラム調査の調査地点はJR阪和線各駅に近い集落が対象となっているので、この形式が和泉市の更に山間部寄りに分布する形式であるため、認められなかったのかも知れない。

大阪府の泉南側と和歌山紀北側とのこの項目の調査結果を更に細かく調べた結果が次の「泉南市山間部言語調査報告【表I】」である。

ここでも老・中年層ではゴトヒキ、若年層ではイボガエル・ヒキガエル・ガマガエルが用いられ、【表2】と大差はない。また、若年層ではヒキガエルよりもイボガエルが優勢である点も【表2】の結果と一致する。

(3) 「蛇（へび）」

「泉南紀北境界付近方言地図【図3】」によると、全域でクチナワ、岸和田市から泉南市にかけてグチナワ、グチナ、グチが分布する。(1) 蛙のところでもたようにグチナワなどの形式はグチナワがクチナワから生じた比較的新しい形式であると思われる。一方、「大阪市～和歌山市間方言グロットグラム調査結果【表3】」では、和泉市信太山から和歌山市雑賀崎に至る地域のクチナワ、グチナワの分布の中にへびが進入してきている様子を窺うことができる。また、大阪市天王寺区、同阿倍野区、

同住吉区の60歳以上の世代でクチナワ、クチナの使用が認められることから大阪市天王寺～高石市富木間においてもかつてはクチナワが用いられていたとみられる。しかし、この区間ではいち早くヘビがクチナワに完全に取って替わったといてよい。以下に岸和田市と泉南市とのちょうど中間に位置する熊取町で行った全集落世代別調査のこの項目の結果を以下に示すことにする。

泉南市山間部言語調査報告

項目 蟻蛙（ひきがえる）

番号	調査地点	老年層	中年層	若年層
01	泉南市榑井	●	□	□
02	泉南市信達牧野	● △	●	NR
03	泉南市信達佐田	●	●	☆ △
04	泉南市信達六尾	● ○	●	□
05	泉南市信達金熊寺	●	●	□
06	泉南市信達童子畑	●	●	△
07	泉南市信達楠畑	●	●	□
08	泉南市信達葛畑	●	●	□
09	那賀郡岩出町押川	●	●	△
10	那賀郡岩出町根来	●	△	□
11	那賀郡岩出町今中	●	△ ☆	☆
12	那賀郡岩出町川尻	●	△	□
13	那賀郡岩出町中迫	●	●	△ □
14	那賀郡岩出町清水	◎	●	▼

凡 例

- ☆ ガマガエル
- イボガエル
- △ ヒキガエル
- ▼ ウシガエル
- ヒキゴト
- ゴトヒキ
- ◎ ゴトガエル
- NR 無回答

《備考》
老年層は60歳以上、中年層は50～40歳代、若年層は20～10歳代を指す。

《表 I》

熊取町全集落調査

項目 蛇（へび）

集落名	大久保	紺屋	五門	野田	朝代	和田	成合	小垣内	七山	大宮	久保	小谷	高田
10代	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽
20代	▽	▽	▽	▽	▽●	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽
30代	▽	▽●	▽	▽	●	▽	▽●	▽	▽	▽	△	△	▽●
40代	▽●	▽	△●	▽	△●	▽	●	▽●	▽●	▽	▽	●	●
50代	▽●	●	▽	△●	●	▽	●	●	△	▽●	●	●	●
60代	▽●	△●	●	●	●	●	△	△	●	●	△	●	●
70代	▽	●	△	●	△	●	●	●	△	△	△	△●	▽●
80代	△	△	△	△	△	△	△	△	●	△	△	●	△●

凡 例 ▽ へび △ クチナワ ● グチナワ

《表 II》

熊取町の80代にはクチナワがよく用いられるのに対して60代～30代ではグチナワがよく用いられており、この調査結果でもクチナワの方がグチナワよりも古いことが示されている。この調査は「泉南・紀北方言地理学的調査」とほぼ同時期に行われた調査であり、この時期、既に若・中年世代で熊取町でもヘビが使用されており、《表Ⅱ》と【表3】とを比較すると、17年間という時間が経過したのであるから当然の結果なのだが、ヘビの使用世代がさらに高年世代へと広がったことが明らかとなった。

(4) 「蝮(まむし)」

【図4】では和泉市から和歌山市全域でハビが分布している。その他、和泉市西部及び岸和田市東部にハベ、ハブがまとまって見られる。ハブは和歌山県側にも点在している。共通語形のマムシはほとんど見られない。これに対して【表4】では中若年層にマムシが用いられている。ハビの使用は和泉市府中以南の地域で認められるが、世代が下がるにしたがって減っており、20代・10代でマムシ、50代～30代でハブが主として用いられるようになっていく。マムシの使用は全国共通語化によるものであるが、ハブはこの地方でハビから直接、変化したものであり、沖縄のハブに影響されて生じた可能性もある。ただ、ハビからの変化形と思われるハベ、ハメ、ハミ等の分布が【図4】において、堺市西部から岸和田市東部にかけて認められたが、この分布は【表4】の老年層においても確認されたといつてよい。もともとハビは蝮の古語であるハミから変化であると思われるが、少なくとも泉南地方ではハミはハビに変化した後、ハベ、ハメ、ハブ等に変化したものとみられる。【図4】および【表4】和泉市にみられるハミも古語の残存というよりはハビから変化したものと考えられる。以下にこの項目の「泉南市山間部言語調査報告《表Ⅲ》」の調査結果を掲げる。

泉南市山間部言語調査報告

項目 蝮(まむし)

番号	調査地点	老年層	中年層	若年層
01	泉南市樽井	/ -	* / ▽	/
02	泉南市信達牧野	▼	▼	*
03	泉南市信達佐田	▼	▼	▽
04	泉南市信達六尾	/ ▼	▼	▽
05	泉南市信達金熊寺	▼	▼	/
06	泉南市信達童子畑	/ ▼	/	/
07	泉南市信達楠畑	▼	▼	▼
08	泉南市信達葛畑	▼	▼	▼
09	那賀郡岩出町押川	▼ ▽	▼	▼ ▽
10	那賀郡岩出町根来	▼	▼	▽
11	那賀郡岩出町中	- ▼	▼	▽
12	那賀郡岩出町川尻	▼	▼	▽
13	那賀郡岩出町中迫	-	▼	*
14	那賀郡岩出町清水	-	▼	▽▼ /

凡 例
/ マムシ
▼ ハビ
▽ ハブ
- ヘビ
* ドクヘビ
《備考》
老年層は60歳以上、中年層は50～40歳代、若年層は20～10歳代を指す。

《表Ⅲ》

この調査結果では若年層でマムシよりもハブの方がよく用いられていること、老年層では【図4】に現れなかったへびが泉南市樽井と和歌山県側の岩出町各地の老年層に認められた点である。岩出町各地の老年層では「蛇」にクチナワ、クチナーなどの形式を用いており、先の沖縄のハブと同様、共通語のへびを「蝮」の形式として用いたものであると思われる。「蛇の総称」としてのへびを「蝮」の方言形式として答えたものではない。

(5) 「返礼の品」

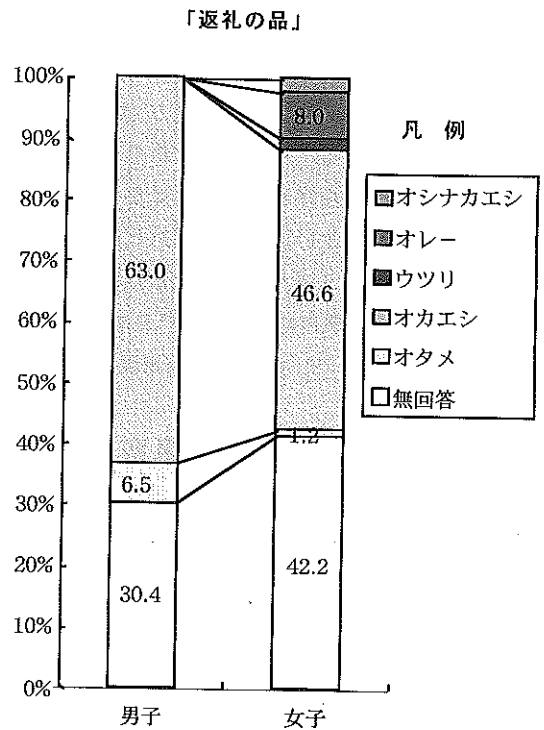
泉南市岡田世代別方言調査

泉南市岡田・中学生アンケート調査

話者 生年	項目 「返礼の品」			
	表現 形式 オ タ メ	タ メ	オ カ エ シ	カ エ シ
明30F	●			
明36M	●	●		
明40F	●			
明42M		●		
明44F		●		
大1F		●		
大3M		●		
大3F		●		
大5M		●		
大6M	●	●		
大9M	●			
大12F	●	●	●	
大12F	●	●		
大14M		●		
大15F		●		
昭2M		●		
昭3M	●			
昭6M		●		
昭19F		●		
昭19F			●	
昭35M			●	●
昭43M				
昭46M				
昭50M				
昭51M				

注 Fは女性、Mは男性。

《表IV》



《表V》

近所でお祝い事があると、赤飯などの入った重箱を頂くことがあった。その重箱を返す際にその中にちょっとした物を入れて重箱を返すという習慣があったが、その中に入れる返礼の品をどう言うか、聞いた結果である。

【図5】では大阪府・和歌山県の県境を境にして明らかな分布上の差が認められた。大阪府側がタメ（オタメ）であるのに対して和歌山県側ではメーを使用し、両者は分布上対立している。また、和歌山県側のメーが北上して各街道沿いに大阪府側に侵入してきている様子が窺える。

【表5】では大阪市天王寺から阪南市山中溪にかけてタメ（オタメ）が使用されており、和歌山市紀伊から同市雑賀崎まではメーが使われる。17年前の調査結果との差が特に老年層では全くなかった。ただ、このような慣習が最近ほとんど見られなくなったことを反映してか、オカエシという形式に中年層から若年層にかけて変わってきていること、特に若年層世代ではこの慣習自体を知らないため、無回答が多くなっている。

泉南市教育委員会（1991）が泉南市の海岸部にある一集落の岡田で行った、世代別調査結果《表IV》と同集落の泉南市岡田中学校でのアンケート調査結果《表V》とにおいても、これらの点を裏付けることができた。まず、《表IV》では昭和19年に生まれた話者を境にして、タメ（オタメ）の使用の有無が明らかにされている。また、《表V》では中学生ではタメの使用率が男子で6.3%、女子で1.2%と非常に低いことが示された。今後、タメ（オタメ）は間違いなく消滅の一途をたどることになると予想される。

（6）「日照り雨」

ヨメトリ（キツネノヨメドリ）という形式がまとまって分布している。キツネ～かケツネ～かは、有意味ではなく、分布上の対立を示さなかった。キツネノヨメイリと答えた地域では一般的に婚姻を「嫁入り」ということが多いのに対してキツネノヨメトリ（キツネノヨメドリ）と答えた地域では「嫁取り」ということが多い。前者の形式が泉南地方に伝播した際、この地域ではあまり馴染みのなかった～ヨメイリという形式を～ヨメトリ（～ヨメドリ）に置き換えたものと考えることができる。

【表6】では分布上、特に～ヨメドリを使用する地域において世代差が認められた。貝塚市石才～阪南市和泉鳥取の間で40代以上の中・老年層では【図6】との分布上の一致が確かめられたが、それより若い世代では～ヨメイリが用いられる傾向が顕著である。これは大阪市方面からの影響によるものであろう。～ヨメトリは既に消え、ヨメドリも衰退していることが明らかである。因みにキツネノヨメイリは大阪市天王寺から和歌山市旧市街に至る地域で依然として勢力があり、全年層に用いられているところから、泉南地方でも近い将来、この形式に置き換えられることになろう。

さて、ここでも泉南市岡田で行った世代別調査の結果と同地区での中学生を対象にしたアンケート調査結果を泉南市教育委員会（1991）から引くことにする。この解説は、

「世代別調査では、明治末生まれを中心にキツネノヨメイリがかたまっているが、大きく分けると、老年層はキツネノヨメドリ、中年層・若年層はキツネノヨメイリといった対立がある。老年層と中年層との間を境にして語形が切り替わっているのである。中学生アンケートでは90%近くがキツネノヨメイリで、キツネノヨメドリという泉州独特の形式は完全に消滅してしまった。」

と述べている。世代別調査の結果《表VI》ではこの項目で回答された形式はわずかに2形式、これに対して中学生に対するアンケート調査結果《表VII》ではその他を除き6形式が回答された。若年層では、【表6】の和歌山市紀伊～同市紀伊中之島あたりの10代～30代にみられるようなテンキアメ

などの新形式が今後キツネノヨメイリに替ってよく用いられるようになる可能性がある。《表Ⅶ》の結果にもわずかではあるがその兆しを伺うことができ、泉南地方での新しい形式として定着していく可能性を秘めている。

泉南市岡田世代別方言調査

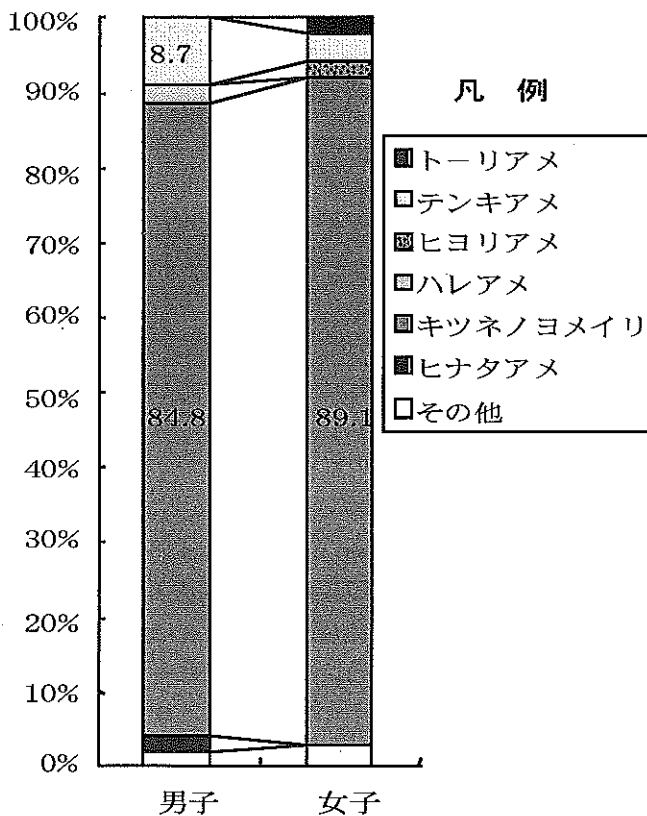
項目 「日照り雨」

話者 生年	表現 形式	キ ツ ネ ノ ヨ メ ド リ	キ ツ ネ ノ ヨ メ イ リ
明30F		●	
明36M		●	
明40F			●
明42M			●
明44F			●
大1F		●	
大3M			●
大3F		●	
大5M		●	
大6M		●	
大9M		●	
大12F		●	
大12F		●	
大14M		●	
大15F		●	
昭2M		●	
昭3M		●	
昭6M		●	
昭19F		●	
昭19F			●
昭35M			●
昭43M			●
昭46M			●
昭50M			●
昭51M			●

《表Ⅵ》

泉南市岡田・中学生アンケート調査

「日照り雨」



《表Ⅶ》

4. おわりに

大阪府の南部にあたる泉南地方を対象とした方言調査をさまざまな方法を用い、約17年間にわたり続けてきた。各調査結果の比較を行うことによってこの地方の方言がどのように変化してきたかを知るため、それぞれの調査で取り上げた共通項目の比較を行ってみた。取り上げた6項目はいずれも語彙であったが、80年代から90年代にかけてこれらの項目の方言がどう推移したか、その動向をみかけ時間における比較だけではなく、実時間の比較という観点で取り上げた。

各項目毎にその推移の状況は異なるが、概ね方言地図で明らかに認められた各項目毎の方言分布上の対立が17年後のグロットグラム調査では、老年層にその対立が確認されただけで、中年層から若年層に世代が下るに従って大半この対立が消失していく様子を確認することができた。特に若年層では共通語化が急速に進んでいるのと同時に大阪市方面からの影響を受け、大阪市方言化が顕著であることが明らかとなった。

宮治(1995)が指摘するように、大阪市における若年層の方言の場合などは共通語化の方向へ必ずしも進んでいない事象が割と多くあり、独自の変化が認められるという見解に賛成である。今後、泉南地方での独自変化や大阪市方言の影響といった観点での調査を行いたいと思う。

参考文献

- 榎垣実編(1962)「近畿方言の総合的研究」、三省堂
- 藤原与一・広島方言研究所(1974)「瀬戸内海言語図巻 上・下」、東京大学出版会
- 岸江信介(1987)「熊取町の方言」、熊取町教育委員会
- 徳川宗賢・真田信治(1988)「和歌山県紀ノ川流域の言語調査報告」(『日本学報』第5号)、大阪大学
- 岸江信介(1990)「大阪府泉南地方に残る古音シェ・クワについて」(『新国語研究』第34号)、大阪府高等学校国語部会
- 泉南市教育委員会(1991)「泉南市岡田地区民俗資料調査報告」
- 中井精一(1992)「関西共通語化の現状」(『阪大日本語研究』4)
- 泉南市教育委員会(1994)「泉南市山間部言語調査報告」
- 宮治弘明(1995)「大阪市の若年層における方言の動態」(『梅花女子大学紀要』第29号)
- 中井精一(1995)「深日の逆さことば」(『摂河泉文化資料』第44号)
- 岸江信介・中井精一(1997予定)「大阪市～和歌山市間方言グロットグラム調査報告」、摂河泉文庫
- 岸江信介(1997予定)「大阪府におけるハルとヨルの動態と分布」(名古屋・方言研究会会報・第15号)

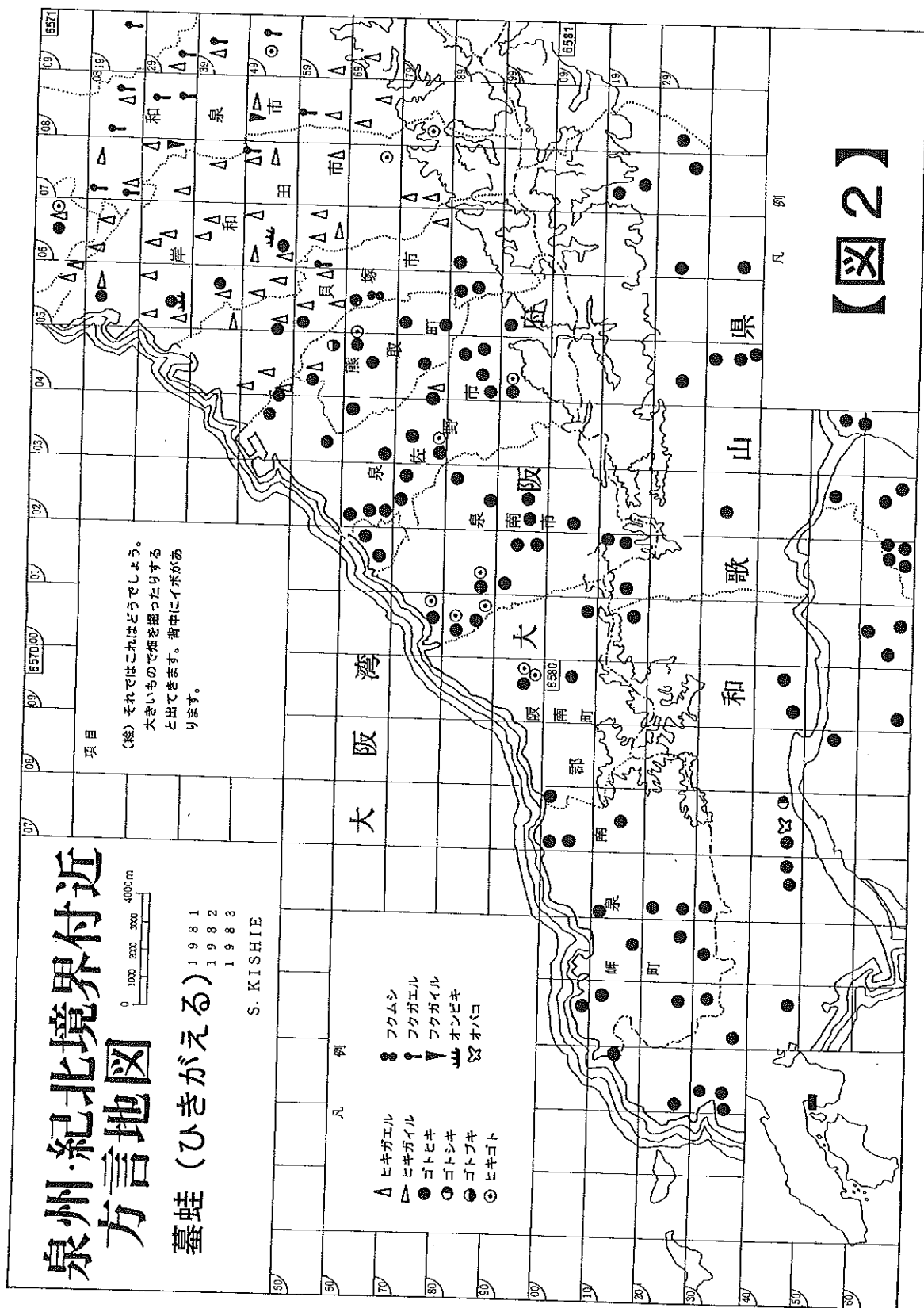
大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 蛙（かえる） 】

質 問：（絵）これを何と言いますか。大きいものや小さいのがありますが、ひっくるめて何と言いますか。（カエル）－総称－

世 代 調査地点		70	60	50	40	30	20	10	凡 例
		歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	
01	大阪市天王寺区	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀ カエル
02	大阪市阿倍野区	㇀	㇀	㇀	㇀	↑	㇀	㇀	∨ カイル
03	大阪市住吉区	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	● ガイル
04	堺市浅香	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	⊙ ガエル
05	堺市旧市街	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	↑ カワズ
06	堺市鳳	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	NR 無回答
07	高石市富木	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
08	和泉市信太山	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
09	和泉市府中	∨	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
10	岸和田市久米田	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
11	岸和田市下松	㇀	⊙	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
12	岸和田市土生	㇀●	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
13	貝塚市東貝塚	㇀	㇀⊙	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
14	貝塚市石才	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
15	熊取町大久保	㇀	⊙	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
16	泉佐野市日根野	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
17	泉佐野市長滝	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
18	泉南市新家	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
19	泉南市和泉砂川	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
20	阪南市和泉鳥取	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
21	阪南市山中溪	㇀	⊙	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
22	和歌山市紀伊	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
23	和歌山市六十谷	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
24	和歌山市紀伊中之島	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
25	和歌山市旧市街	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	㇀	
26	和歌山市雑賀崎	㇀	㇀	㇀	㇀	NR	㇀	㇀	

【表 1】



【図2】

大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 墓蛙（ひきがえる） 】

質 問：（絵）大きいもので、畑を掘ったりすると出てきます。

背中にイボがあります。これを何と言いますか。

世 代 調査地点		70	60	50	40	30	20	10	凡 例
		歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	
01	大阪市天王寺区	△	—	—△	NR	△	△	△	ガマガエル
02	大阪市阿倍野区	—	△	△	—	—	NR	NR	= ガマ
03	大阪市住吉区	%	ㄐ	△	△		—	—	— イボガエル
04	堺市浅香	△	—	—	—	—	/	—	◇ イモガエル
05	堺市旧市街	△	△	—△	—	—	—	—	▼ ウシガエル
06	堺市鳳	ㄐ	NR	△	—	—	—	◇	☆ ツナガエル
07	高石市富木	●	△		NR	△—	▼	/	△ イガエル
08	和泉市信太山	△	ㄐ	ㄐ	NR			NR	∞ カミサンガエル
09	和泉市府中		△		△	△		△	△ ヒキガエル
10	岸和田市久米田	△	△+	△	△			—	× ヒキ
11	岸和田市下松	ㄐ	●	△		△		—	◎ ヒキゴト
12	岸和田市土生	∞△	△	△	△	—	—	—	○ ヒキゴタ
13	貝塚市東貝塚	●	●	—	—	—	—	△	● ゴトヒキ
14	貝塚市石才	○	△◎	△	NR		▼△	▼	● ゴトウバ
15	熊取町大久保	△	=	—	—	NR	—	—	ㄐ オンビキ
16	泉佐野市日根野	●	●	●	△		△	—	/ カエル
17	泉佐野市長滝	●	●	●	●	●	—	—	÷ ガエル
18	泉南市新家	●	●	●	NR	—			ㄐ ナタバ
19	泉南市和泉砂川	●	△	△	△		—	☆	% オカンババ
20	阪南市和泉鳥取	●	/	—△		—	—	—	NR 無回答
21	阪南市山中溪	●	×●	●	=●	=●	—	—	
22	和歌山市紀伊	●	●	●	—	—	—☆	—	
23	和歌山市六十谷	●	●				●	—	
24	和歌山市紀伊中之島	●	△●						
25	和歌山市旧市街	ㄐ	●	●	—	—	△	—	
26	和歌山市雑賀崎	●○	●	●	/	NR	—	—	

【表2】

大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 蛇（へび） 】

質 問：（絵）草むらやあぜ道にいます。細長くてによろよろして、
気持ち悪いものです。これを何と言いますか。－総称－

調査地点	世 代								凡 例	
	70 歳代	60 歳代	50 歳代	40 歳代	30 歳代	20 歳代	10 歳代			
01 大阪市天王寺区	V	∧	V	V	V	V	V	V	V	∨ ヘビ
02 大阪市阿倍野区	V	Y#	V	V	V	V	V	V	Y	クチナ
03 大阪市住吉区	Y	VY	V	V	V	V	V	V	∨	クチナー
04 堺市浅香	V	V	V	V	V	V	V	V	∇	グチナ
05 堺市旧市街	V	V	V	V	V	V	V	V	∧	クチナワ
06 堺市鳳	V	V	V	V	V	V	V	V	●	グチナワ
07 高石市富木	Y	V	V	V	V	V	V	V	#	ミーサン
08 和泉市信太山	∧	∧	∧	V	V	V	V	V	NR	無回答
09 和泉市府中	∧	V	∧	V	V	V	V	V		
10 岸和田市久米田	●	●	●	●	V	V	V	V		
11 岸和田市下松	V	∧	V	V	V	V	V	V		
12 岸和田市土生	●	∧	∧#	V	V	V	V	V		
13 貝塚市東貝塚	∧	V	V	V	●	V	V	V		
14 貝塚市石才	∧	●	V	V	V	V	V	V		
15 熊取町大久保	●	●	V	V	V	V	V	V		
16 泉佐野市日根野	●	V	V	V	V	V	V	V		
17 泉佐野市長滝	∧	●	∇●	V	V	V	V	V		
18 泉南市新家	V	●	∇●	∧	V	V	V	V		
19 泉南市和泉砂川	V	Y	V	V	V	V	V	V		
20 阪南市和泉鳥取	∧	V	V	V	V	V	V	V		
21 阪南市山中溪	V	∧	∧	V	V	V	V	V		
22 和歌山市紀伊	V	∧	V	V	V	V	V	V		
23 和歌山市六十谷	Y	∨	V	∨	V	V	V	V		
24 和歌山市紀伊中之島	∧	V	V	∧	V	V	V	V		
25 和歌山市旧市街	∧	V	V	V	V	V	V	V		
26 和歌山市雑賀崎	∧●	V	∧	V	NR	V	V	V		

【表 3】

大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

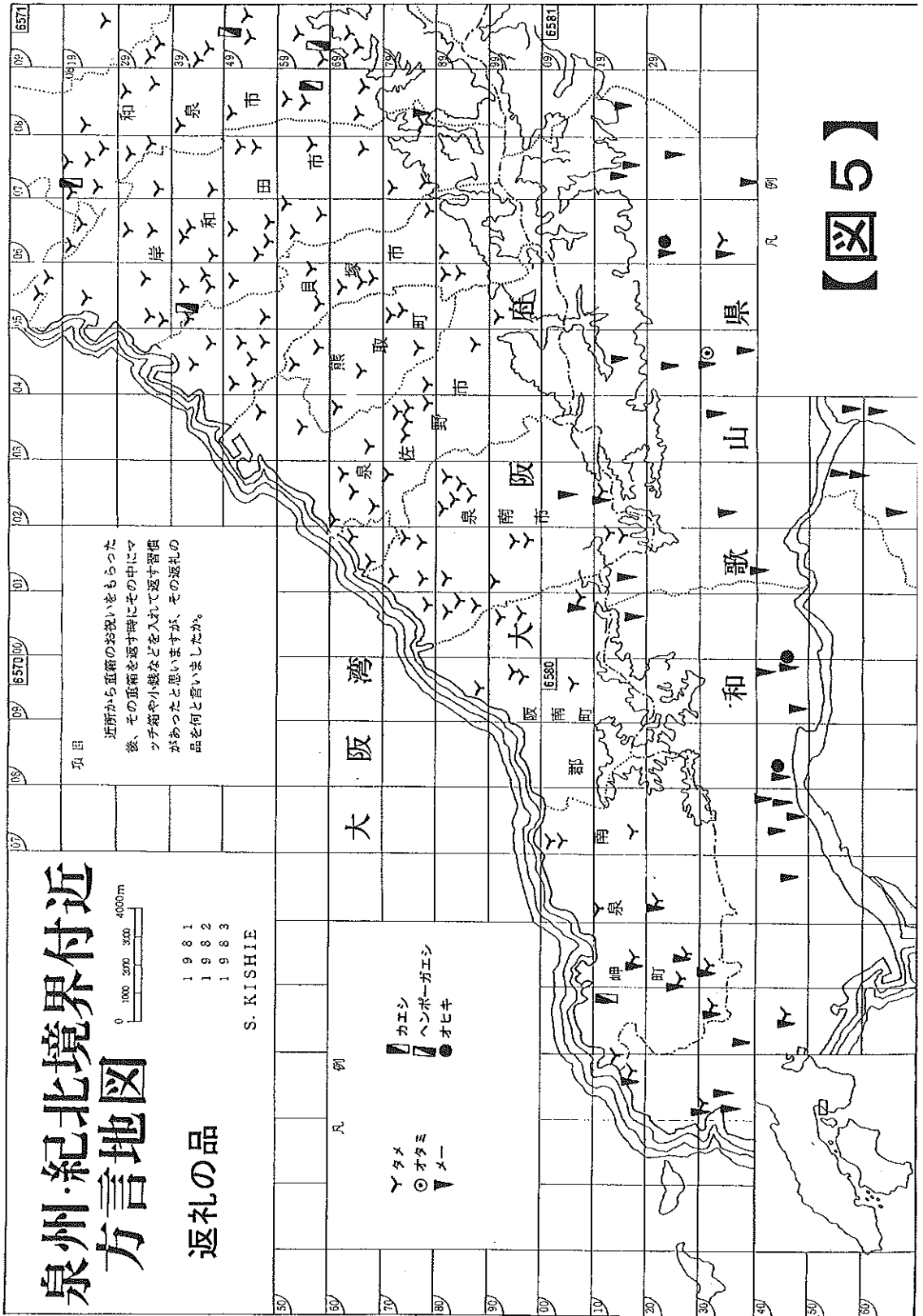
項目名【 蝮（まむし） 】

質 問：（絵）草むらやあぜ道にいます。細長くてにょにょして、
 気持ち悪いものです。毒があります。これを何と言いますか。

	世 代 調査地点	70	60	50	40	30	20	10
		歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	歳代
01	大阪市天王寺区	／▽	／	／	／	／	／	▽
02	大阪市阿倍野区	▽	／	／	／	／	*	／
03	大阪市住吉区	／*	／	／	／	／■	／	／
04	堺市浅香	／	▽	／	／	*	／	／
05	堺市旧市街	▽*	／*	／	／	*	／	／
06	堺市鳳	▽	▽	△	／	／	／	／
07	高石市富木	□	／	▽	NR	／	／	／
08	和泉市信太山	△▽	■	□	／▽	▽	／	／
09	和泉市府中	▽	▼	▼	▽	▽	／▼	／
10	岸和田市久米田	△	▼	▼	▽	▼	▽	▽
11	岸和田市下松	▽▽	▼	／	▼	▼	▽	／
12	岸和田市土生	▽▽	／	／▼	—	／▽	*	*
13	貝塚市東貝塚	▼	*	／	／	／	／*	／
14	貝塚市石才	▼	▼	▼	／	▼	／	／
15	熊取町大久保	▼	／▼	／	／▽	／	／	／
16	泉佐野市日根野	▼	▼	▽	▽	▽	▽▽	*
17	泉佐野市長滝	／▽	／▼	▼	▼	▽▽	—	*
18	泉南市新家	▼	▼	▽▽	▼	▼	／	／
19	泉南市和泉砂川	▼	▼	▼	▼	▼	*	／
20	阪南市和泉鳥取	▼	／	／	▽	▽▽	*	／—
21	阪南市山中溪	▽▽	▼	▼	▼	／◆	▼	／
22	和歌山市紀伊	▼	▼	／▼	／	▽	▼	▽
23	和歌山市六十谷	▼	▼	▼	▼	▼	▼	／
24	和歌山市紀伊中之島	▽	◆	／	▽	／	—	／
25	和歌山市旧市街	▼	▽▽	▽	▽	▽	／	／
26	和歌山市雑賀崎	—▼	▽▽	▼	／▼	NR	／	—

凡 例
 ／ マムシ
 ■ ハミ
 □ ハメ
 ▽ ハブ
 △ ハベ
 ▼ ハビ
 — ヘビ
 * ドクヘビ
 NR 無回答

【表 4】



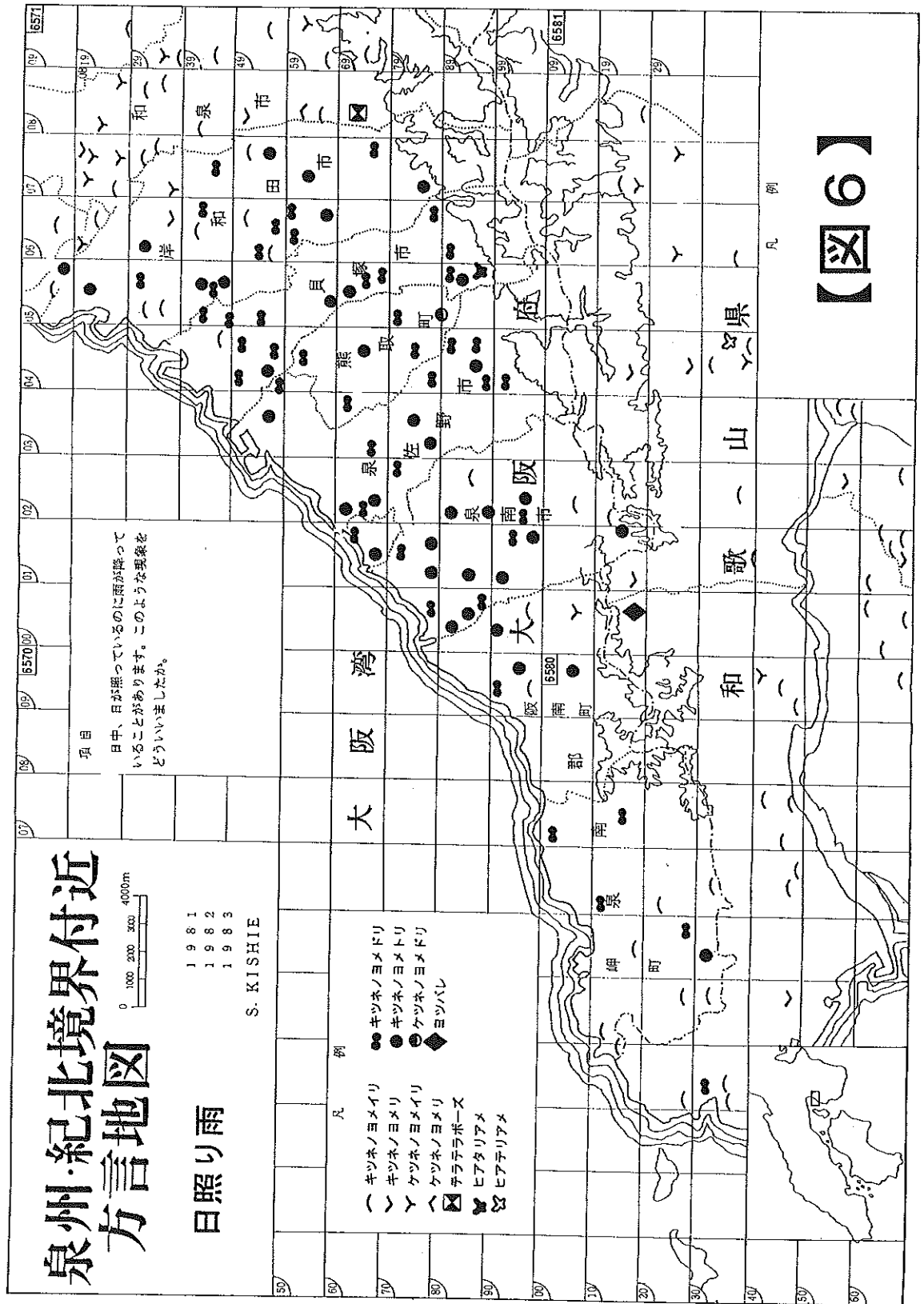
大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 返礼の品 】

質 問：近所から頂いたお祝いの重箱を返すときにその中にちょっとしたものを
入れて返すことがあったと思います。重箱の中に入れるそれをなんと言いますか。

	調査地点	世 代							凡 例
		70 歳代	60 歳代	50 歳代	40 歳代	30 歳代	20 歳代	10 歳代	
01	大阪市天王寺区	/Y	/	Y●	NR	Y	/	/	/ オカエシ
02	大阪市阿倍野区	Y	Y	/	Y	/	/	/	▣ カエシ
03	大阪市住吉区	Y	Y	Y	Y	NR	○÷	Y	+ カヤシ
04	堺市浅香	Y	/	Y	/	/	NR	NR	- オイワイガエシ
05	堺市旧市街	Y	/	Y	Y	NR	Y	/	= イチワリガエシ
06	堺市鳳	◇	Y	Y	/	○	/	/	Y タメ
07	高石市富木	NR	/	Y	/	/Y	/	/	◇ オトメ
08	和泉市信太山	Y	/Y	Y	Y	/	/	NR	○ オレイ
09	和泉市府中	Y	Y	/	▣	▣	/	NR	● オヒキ
10	岸和田市久米田	Y	Y	Y	Y	Y	NR	NR	▼ メー
11	岸和田市下松	Y	Y	Y	/Y	Y	NR	NR	* 習慣がない
12	岸和田市土生	Y	Y	Y	*	*	Y	Y	NR 無回答
13	貝塚市東貝塚	Y	Y	Y	Y	/	Y	/	
14	貝塚市石才	Y	Y	Y	Y	NR	-	/	
15	熊取町大久保	Y	Y	/	/	/	NR	NR	
16	泉佐野市日根野	Y	Y	Y	/	Y	Y	/	
17	泉佐野市長滝	Y	-Y	Y	=Y	/	NR	/	
18	泉南市新家	Y	Y	Y	Y	Y	NR	NR	
19	泉南市和泉砂川	Y	Y	Y	Y	Y	/	/	
20	阪南市和泉鳥取	/Y	Y	Y	Y	Y	/	/	
21	阪南市山中溪	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y	
22	和歌山市紀伊	/	▼	▼	▼	▼	NR	NR	
23	和歌山市六十谷	▼	▼	▼	▼	▼	▼	NR	
24	和歌山市紀伊中之島	Y	▼	▼	▼	Y	NR	NR	
25	和歌山市旧市街	▼	▼	▼	NR	/	NR	NR	
26	和歌山市雑賀崎	+	▣▼	NR	▼	NR	NR	NR	

【表5】



大阪市～和歌山市間 方言グロットグラム

項目名【 日照り雨 】

質 問：日が照っているのに、雨が降っていることがあります。
 そのような時のことをどう言いますか。

	調査地点	世 代						
		70 歳代	60 歳代	50 歳代	40 歳代	30 歳代	20 歳代	10 歳代
01	大阪市天王寺区	—	~Y	~Y	◎	—	—	—
02	大阪市阿倍野区	—	Y	Y	—	Y	—	—
03	大阪市住吉区	—	—	—	—	—	—	—
04	堺市浅香	◇	—	—	—	—	—	—
05	堺市旧市街	◎□	~Y	—	—	—	—	—
06	堺市鳳	Y	Y	Y	—	—	—	Y
07	高石市富木	=	—	~Y	—	—	—	—
08	和泉市信太山	—	—	—	—	—	Y	—
09	和泉市府中	Y	—	—	—	—	—	—
10	岸和田市久米田	—	●	—	—	—	—	NR
11	岸和田市下松	—	Y	—	—	—	—	—
12	岸和田市土生	Y∴	~Y	—	—	—	Y	Y
13	貝塚市東貝塚	—	*	—	~Y	—	—	Y
14	貝塚市石才	●●	●●	/	●●	—	—	—
15	熊取町大久保	●●	●●	—	—	—	—	◎
16	泉佐野市日根野	●●	●●	Y	Y	—	~Y	Y
17	泉佐野市長滝	—	—	—	●●	▽	—	☆
18	泉南市新家	Y	Y	~●●	●●	—	Y	Y
19	泉南市和泉砂川	●●	●●	●●	●●	Y	—	—
20	阪南市和泉鳥取	●●	●●	—	—	—	—	—
21	阪南市山中溪	—	—	—	—	—	—	●●
22	和歌山市紀伊	+*	Y	+	NR	Y	~◎	◎
23	和歌山市六十谷	—	●	—	—	—	~≠	~◎
24	和歌山市紀伊中之島	●	—	—	—	~◎	—	◎
25	和歌山市旧市街	~●●	—	☆	—	—	—	NR
26	和歌山市雑賀崎	%	~#	—	—	NR	NR	÷

凡 例

- キツネノヨメイリ
- / キツネノオヨメイリ
- = キツネガヨメイリ
- Y ケツネノヨメイリ
- ▽ ネズミノヨメイリ
- ケツネノヨメドリ
- キツネノヨメドリ
- ÷ ヒデアアメ
- ≠ ヒヤタリアメ
- + ヒナタアメ
- ヒアタリアメ
- ◇ キナタアメ
- ◎ テンキアメ
- ニワカアメ
- ☆ トーリアメ
- # シングレ
- * ユウダチ
- ∴ テラテラ
- % ヨラテ
- NR 無回答

【表6】